

(様式2)

学校関係者評価報告書

(愛媛県立新居浜東高等学校)

学校番号 (4)

評価実施日		令和 6 年 2 月 21 日 (水)	
委員	氏名	所属等	備考
	井田 仁美	学校評議員 (保育園園長)	
	小野 緑	学校評議員 (高齢者介護支援事業所長)	
	塩崎 珠美	学校評議員 (民間企業取締役)	
	今西 靖	学校評議員 (税理士事務所代表)	
	秋山 博之	学校評議員 (郵便局 局長)	
	秦 竜吾	学校関係者評価委員 (中学校長)	
	古川 拓哉	学校関係者評価委員 (PTA会長)	
	石井 佐智子	学校関係者評価委員 (スクールライフアドバイザー)	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">○ 家庭学習 3 時間以上の学習を行った生徒数が、全体で約半数と少ない。○ 授業評価が高いのは、タブレットの影響もあるのか。 90%を超える高い評価は素晴らしいが、逆に心配でもある。授業内容を振り返ってほしい。○ 読書量が昨年と比べて減少している。特に、2年生の読書量が少ない。本を読んで語彙力等を身に付け、心豊かで考えて行動できる人間を目指してほしい。 <p>(2) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none">○ 生徒の希望する進路実現に努めていただきたい。○ キャリア教育はどうなっているのか。	<p>各学年主任、担任とも連携を図り課題の与え方を工夫して、学力向上のモチベーションを高めるための方策を考えていく。</p> <p>クイズ形式のアプリを上手く使って授業を盛り上げるなど、上手くタブレットを使用している。また、視覚的な授業も多くなっていることも楽しくなっていることにつながっている。今後は、授業と家庭学習を上手くつなげて、学習効果を高めていく。</p> <p>掲示板や図書館だより等で、新刊紹介や図書室からの情報発信を行っている。生徒の知的好奇心が湧くような蔵書の選択や、図書室からの発信を粘り強く続けていく。</p> <p>1年次から計画的に進路ガイダンスや個別面談等を繰り返し、早期の進路意識の高揚に努め、進路実現に向けて継続的に取り組む生徒を育てていく。</p> <p>総合的な探究の時間の取組改善を進めている。探究活動で企業や地域団体等と関わる中で、推進していく。</p>

(3) 生徒指導

- いじめの認知件数は少ないが、生徒の問題行動等、現状はどうか。件数の多寡は問題ではなく、子どもたちにとって良い方向に進むように指導していただきたい。

- ジェンダーの問題について、気になっている。また、学校のトイレはどう対応しているか。

(4) 健康安全指導

- 重大事故もなく、事故・違反件数も減少しているが、交通マナーについては改善の必要がまだまだある。交通安全の意識向上に努めてほしい。

- 皆勤率の低下が心配である。学校に行くことが持久力や精神力につながる側面もあると思う。

(5) 特別支援教育

- 特別に支援の必要な生徒の現状はどうか。個々の適性に応じた支援をお願いしたい。

(6) 保護者・地域等との連携

- 今年度は、体育祭や文化祭、公開授業の参観等、保護者が子供の活動を参観したり、学校行事に参加したりすることができてよかった。来年度は、さらに充実した活動を期待する。

(7) 教育環境

いじめの認知件数、発生件数は減少し、問題行動としての件数はなかったが、その反面人間関係のトラブルが増えている。人間関係のトラブルなどを未然に防止するために、担任、教育相談などとの連携をより密にして、情報共有を図ることで事態の改善に当たる。

今年度からスラックスの着用を男女ともに認めている。女子生徒数名が着用している。カミングアウトした生徒の確認・把握はしていない。トイレは、本館1階が多目的、屋外が車椅子可能であり、男女どちらも使用できる。

交通安全委員・教員による通学時の街頭指導や交通安全意識啓発は、工夫して継続していく。日常の学校生活の中での指導や意識啓発の機会を増やしていく。

皆勤の意識がコロナを経験して変化してきているように感じる。健康で基本的な生活習慣を身に付けることの大切さを指導していく。

2名の支援員を配置し、教室移動等で支援にあたり、学習活動が継続できるように支援している。

現在、支援計画が必要な生徒はいないが、4月には中学校からの情報を教員間で共有するようにしている。市との連携も可能である。

保護者や地域との連携も図り、体験活動を通して生徒の生きる力の育成に努めていく。また、ホームページ等で情報発信することで、学校の魅力を伝えていく。

- 進路室の資料も充実し、生徒の利用も増加した。さらに、進路希望に応じた有効活用につながるように、自習室・進路室の利便性向上を図る。

自習室の整備と生徒が使いやすい環境の維持に努める。

進路室の資料を充実していくことで、更に、進路室の利用者数の増加を目指し、それが進路実現につながるような方策を考える。

次年度は、ICT機器の活用について重点を置き、就職希望者への情報提供のデジタル化を目指し、生徒が扱いやすくできるよう工夫していく。進学希望者については、例年利用している業者のシステムの利用率を上げることを目標とする。

(8) 業務改善

- 教職員におかれては、学習指導や部活動指導等、とても多忙に感じるが、さらに業務の改善に努めて生徒に向き合う時間を確保してほしい。

校務系のメッセージや掲示板を利用した情報共有及び研修会を積極的に実施し、ペーパーレス化や業務の効率化を目指す。